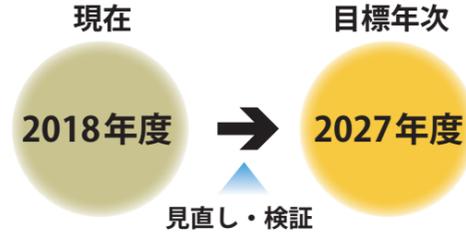


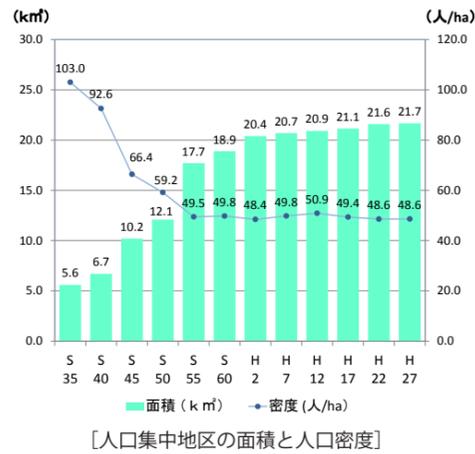
都市マスタープランとは

都市マスタープランでは、人口減少と高齢化が進展する中、持続可能なまちづくりを進めるため、目指すべき将来都市構造や土地利用、都市施設の整備などに係る基本的な方針を示します。松江市全域を対象区域とし、2027年度を目標年次とする10年間の計画とし、計画期間中に市民や地域のニーズを踏まえて検証を行い、見直しの必要が生じた場合には、速やかに反映を図ります。

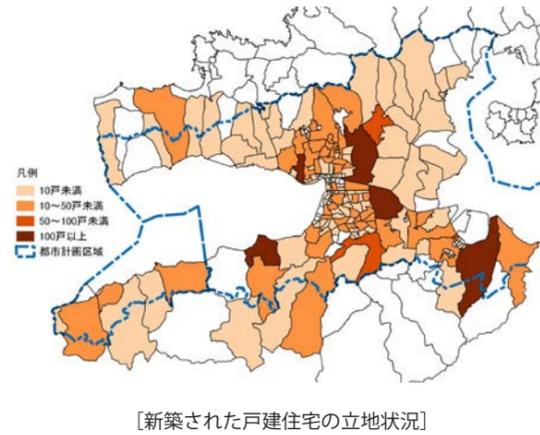


現状と課題

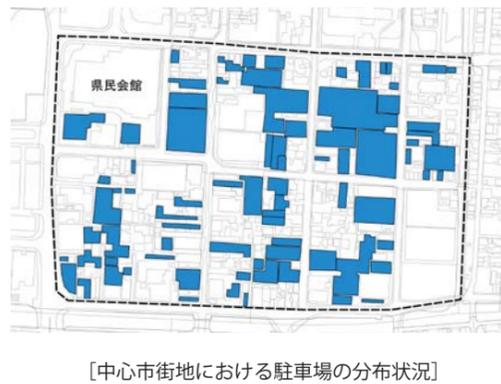
市街地が徐々に拡大



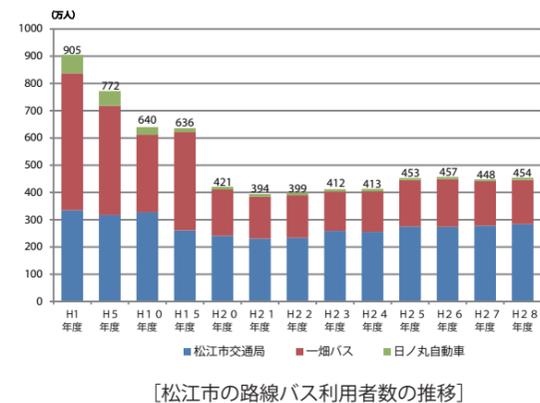
市街地周辺部での住宅立地が進行



中心市街地の低未利用地の増加



路線バス利用者は近年微増傾向



基本理念

定住と交流による活力あるまちづくり

～豊かな自然や水辺を大切にしたい歴史まちづくりの推進～

松江市には、水辺の美しい景観や、「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」で認められた貴重な地質地形遺産など、豊かな自然が存在するとともに、国宝である松江城や城下町としての伝統的な町並み、さらには古代出雲の繁栄を物語る遺跡群など、悠久の歴史が感じられる多様な地域資源があります。これらを大切にしながら、歴史的な町並みと地域資源を生かした「歴史まちづくり」を推進していきます。これにより生まれ育ったまちに住み続けられる環境整備を進め、多様な世代が居住する循環型の地域の形成を図ります。

計画策定の視点

公共交通網をまちの骨格と位置付ける

将来にわたって市民の移動手段を確保するため鉄道や幹線のバス路線などの公共交通網をまちの骨格と位置付けます。

既存ストックを有効活用する

これまで整備されてきた上下水道や道路、公園等の都市基盤や遊休不動産などの既存ストックの有効活用を進めることにより、安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

規制から誘導への転換を図る

定住促進や雇用創出など求められる機能を誘導すべきゾーンを示し、規制から誘導への転換を図ることにより、民間活力の導入を促し、活力を生み出すまちづくりを進めます。

まちづくりの基本方針

方針1

まちの骨格となる公共交通の整備とアクセス手段の確保

鉄道や主要バス路線といった公共交通の幹線の利便性を高め、まちの骨格となる移動網を整備するとともに、各地域の実情に応じて、公共交通へのアクセス手段など交通環境の構築を検討していきます。



方針2

まちづくりに不可欠な幹線道路の整備

高規格幹線道路や地域高規格道路、さらにこれらと連動した地域の骨格となる幹線道路の整備を進め、生活利便性の向上や地域間の交流促進、市中心部の物流環境の向上を図り安全・安心に移動できる歩行環境や自転車走行環境の整備を推進します。



方針3

多世代が居住する循環型の地域を形成するための土地利用の推進

UIターン者を含めた若い世代の居住を促進することにより、多世代が居住する循環型の地域の形成を目指し、空き家等の中古住宅の流通促進や、既存の住宅の有効活用が可能となる土地利用ルールの整備を図ります。



方針4

若者に魅力ある雇用の創出のための土地利用の推進

インターチェンジ周辺など交通利便性の高い地域において、土地を有効に活用し、流通機能等の誘導を図ることにより、雇用を創出するとともに、IT産業やものづくり産業、観光関連産業等の分野で魅力的な雇用の創出し、定住につながる環境整備を図ります。



方針5

誰もが安全・安心に暮らせるまちの形成

地震や風水害などの自然災害や、火災の危険から住民の生命と財産を守るため、ハード・ソフト両面からの対策を強化します。



方針6

訪れる人との交流を促進するまちの形成

松江城周辺や美保関の青石畳通りなどの伝統的な町並みや、古代出雲神話等の豊かな歴史・文化資源、宍道湖・中海の美しい水辺景観を生かした交流を促進します。また、日本ジオパークの認定を受けた「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」を生かした体験交流の拡大を推進します。

